

平成27年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立南小学校

教育目標(めざす児童生徒像)

たくましく伸びる子の育成
よく学び、工夫する子
思いやりのある子
元気で明るい子

今年度の指導の重点

基礎学力・表現力の向上
「生きる力」の育成
基本的な生活習慣の確立
認め合い支え合う仲間づくり
人権教育の推進
健康・体力の増進

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査について】

- ・国語A・・・「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」が、県平均に比べ、高い。その中でも、「漢字の読み・書き」は6問中5問が県の平均より高い。
「話す・聞く能力」「読む能力」は県の平均より低い。出題の趣旨から見てみると「話の内容に対する聞き方を工夫する。」「具体的な事例を挙げて説明する文章を書く。」に課題が見られる。
- ・国語B・・・全て県より平均点が低い結果となった。特に、「書く能力」では、無回答率が高い。特に「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら書く。」という出題趣旨の設問に課題が見られる。
- ・算数A・・・「分度器の目盛りを読み、180度より大きい角の大きさを求める」という設問が県・全国の平均より高い。しかし、全体的に県・全国の平均より低い結果となった。無回答率が高かったのは「単位となる小数のいくつ分で」「示された見取り図の情報を基に～読み取る。」「見取り図と展開図を関連付けて～理解している。」「式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる。」といった出題の趣旨の設問である。
- ・算数B・・・特に「数学的な考え方」の記述式の無回答率が高い。「理由を記述できる。」という出題趣旨の設問が低い結果となった。
- ・理科・・・「仕組みに適用できる。」「メダカの雄雌を見分ける方法を理解している」という趣旨の設問が平均が高い。顕微鏡の名称の理解が低い。

【学習状況調査について】

- ・「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」という設問では、肯定的回答率が大変高い。
- ・家庭学習の時間は、県に比べて肯定的回答が低くなっている。特に、月曜～金曜の家庭学習の時間に課題が見られる。
- ・「1日あたりのテレビの視聴等」は、県に比べて視聴時間が平均的に少ない。
- ・「国語、算数の勉強は好きですか」「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。」の設問に対しては、県に比べて肯定的回答が高い。
- ・「国語の授業で文章を読むとき、段落や話のまとまりごとに内容を理解しながら読んでいますか。」「理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。」「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて、情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の設問に対して肯定的解答が低く、課題が見られる。

成果と課題

【成果】
国語・算数共に基本的な知識・技能は身につけてきている。特に国語では「言語についての知識・理解・技能」は高くなっている。
算数では、分度器の目盛りを読み、180度より大きい角の大きさを求めるという設問は県・全国より平均が高い。分度器の目盛りを読むなどの技能は高くなってきている。
「引用」「顕微鏡の名称」など頻繁に扱われにくい語彙が設問の中にあらわれたものには、無回答率が低い。
国語においては、「適切な情報を抜き出して書く。」「2つのものを関係づけて自分の考えを書く。」「～を基にして考える。」など、文章を基にして自分の考えを書いたり問われていることに適切に答える設問の無回答率が高い。
算数では国語と同じ、「決められて単位を基にして答えを表す。」「示された情報を基に情報を読み取る。」「2つのものを関連付けて、位置関係を理解する。」と、「何かを基にして考えること」「情報を関連付けて答えを求める。」等の設問の無回答率が高い。

課題に対応した改善方法

理科や算数の授業では、既習の学習内容についての小テストを行う。特に、器具の名称やなど頻繁には扱われないものは毎時間小テストの中にも含み定着させる。
「主語」「ことわざ」「故事成語」その他の語彙を増やすことのできるようなカード(フラッシュカードなど)を活用して繰り返し短時間で繰り返しリズムある学習が展開できるようにする。
朝学習において、算数のデータベースの問題を繰り返し取り組み苦手問題を克服していく。また、「漢字週間」「計算週間」など集中して取り組む期間を決め基礎基本の定着を図る。
算数用語を使いながら、説明したり書いたりまとめたりする言語活動をより多く取り入れる。特にまとめにおいては、児童自らが用語を用いながら自分でまとめることができるようにする。
学力・学習状況調査の問題(特にB問題・記述式)を単元ごとに授業で活用する。
校内研究等で児童が適切に文章を書くことができるように、教師が実際に解いて回答の分析をする。その分析を授業改善に取り入れる。
算数に到達度確認テストを行い、定着が不十分な問題については再度授業で復習する。
ノーマディアや家庭学習のなどを保護者に向けて啓発する。

取組の検証方法及び検証時期

児童の記述ノートの交流(10月)(12月)(2月)
児童への実態アンケートの実施(学期ごと)
上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。
たしかめテストの実施(11月)(2月)

平成28年度津山市達成目標に対する具体的な目標(数値目標等)

国語A、数学A、理科の平均正答率で県平均を上回る。
国語B、算数Bでは今年度の本校の平均を上回る。
無回答率を本校の今年度よりも下回る。